

# グローバル通信

2009. 5 vol. 13

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

皐月の新緑が眩しい季節となりました。今年度第1号（春季号）のニュースレターをお届けします。昨年度はこのコースから7名の院生が巣立ちましたが、去る人あれば来る人ありで、新たに15名の院生を迎えることができました。

土山先生の「送る言葉」にありますように、今日の修了は明日の始まりでもあります。修了生の皆さんのこれからの活躍を願っています。また、新たに入ってきた15名のフレッシュな皆さんへ。辻田先生のお言葉をお借りして、この1年が「本気で格闘する絶好の機会」となることを期待します。（編集部）

世界同時不況の今こそ新しい自治体運営をになう人材育成が大事	1
この大学院コースがワーク・ライフ・バランスのあり方考える場に	1
入学おめでとう	2
龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースによる	2
修了おめでとう	3
修了生への祝辞	3
海外インターンシップ報告	3
第3回 全国大学まちづくり政策フォーラム in京田辺 ～本コース「地域研究発展演習」若手院生たちが優秀賞を受賞～	4
合宿体験記	4
事務局インフォメーション	4



## 世界同時不況の今こそ 新しい自治体運営をになう 人材育成が大事

西澤久夫（東近江市市長）

東近江市は、2度にわたる市町合併を通じて県下で人口第3位、面積は第4位となり、それぞれ滋賀県の10分の1を占める地方都市となりました。日本の中では人口、面積の1,000分の1を占め、鈴鹿山脈から琵琶湖までの市域に中山間、農村、市街地が広がる日本の縮図とも言える地方自治体です。ここには、日本のさまざまな地方自治体が抱える課題があると思っています。

本年2月の市長選後の初登庁では、総人件費、管理経費を2割削減するなどの行財政改革の基本的目標を市民、職員に伝えました。行財政改革の目指す先には、「安心の三重奏」と題する①子育て支援、教育環境・施設整備、②高齢者・障がい者福祉の充実、③地域医療の整備、確立など『基礎的自治体の基本的役割＝住民福祉の増進』を持続可能な形で確実に実行するための財源を確保するという明確な目標があります。

私は、選挙中のマニフェストを実現するため、その行動計画を今後1年間（平成22年3月末完成予定）かけて創り上げたいと考えています。マニフェスト行動計画は、市民、職員、学識経験者などがすべての情報を共有化して、生産的な議論を通して今後4年間（計画完成後3年間）の具体的な施策を具現化するというものです。

そこでは、職員がすべての情報を理解することが必要となります。特に財政に関する基本的事項は、全職員が自治体運営に関わるものとして何を理解すべきです。先進事例の習得、大胆な発想の転換などを求めたいと思います。右肩上がりの自治体運営に慣らされてきた私たちは、世界同時不況の今こそ、そこから脱却して新しい自治体運営の方策を創り上げていかなければなりません。そして、このことは、本コースに期待することでもあります。

こうした先には、「希望都市」東近江市が見えてくものと確信しています。



## この大学院コースが ワーク・ライフ・バランスの あり方考える場に

吉田秀子（働きたいおんなたちのネットワーク）

「働きたいおんなたちのネットワーク」というNPO法人を立ち上げてから10年になります。毎年、子育て期の女性たち約200人が何かにチャレンジしたいと相談にきます。

ハローワークを選ばずに当方に来る女性たちは、就職先を探しているのではありません。子どもや夫が幼稚園や小学校、会社に行っている時間を活用して、何かにチャレンジしながら働きたいのです。けれども、軸足を子どもや家庭、地域におくライフスタイルなので、フルタイムの仕事や高収入が望めません。ならば、そのライフスタイルを変えずに、週に3日、収入は少なくとも、地域の課題を解決するような公益的な仕事がしたい、働きたいと考えるのです。

この働き方にたどり着く前に、見えないバリアが見え隠れします。女性たちの7割は結婚・子育てで離職し、知らず知らずのうちに在宅での子育てを選択しています。思い切って再就職しても、子どもの発熱やケガなどで早退・休暇を繰り返すなど、自分ではどうすることもできない理由で退職を余儀なくされることも多くあります。このバリアもあってか、再就職ではなく、親子ひろばやコミュニティ・カフェなど、自分の経験、技術、資格を生かして地域や誰かのために働きたいという子育て期の女性は少なくありません。理由はどうあれ、働きたいと思うことが悪いはずはありません。地域にはそのような働く場はなかったので、10年かけて公益的な仕事をシェアできる場を私たちは創ってきたのです。

不況の中、子育てや介護、心や身体に不安があるなど、何らかの働きにくさを抱える人たちはますます働き難くなりました。働きたいと思う人たちがそれぞれの働きにくさを抱えながらも働けるような、新たな、そして身近な雇用の場がさらに地域に必要となっています。NPOは、それぞれのライフスタイルに働き方を組み込んで、地域の中に、今後ますます新たな雇用を生み出していきましょう。そうなればワーク・ライフ・バランスは、企業の中だけでなく、地域の女性たちにこそ深く関わってきます。こうした視点を持って研究する女性を、私たちの仲間の中から、このNPO地方行政コースに送り出せればと考えております。

# 入学おめでとう

ご入学、おめでとうございます。  
今年度もまた、多彩な経歴を持った社会人院生、気鋭の若手院生を迎えることができました。  
ご入学された院生を代表して3名の方に抱負をいただくとともに、全員のお名前を紹介します。

## 社会に出るための過程

塩田 健悟 (法学研究科)

昨年度、学部4年生の時に科目履修制度を使い、一部の大学院の授業を受けさせて頂きました。学部生という立場で大学院の授業に参加することで、まだまだ学ばなければならないという自分の未熟さと行動すれば成長できるという可能性に気づくことができました。

このコースの一番良いところは、様々な立場の方と意見を交わすことで自分を「破壊」できることだと思います。自分が信じる理念を持てたとしても、意見を交わす中で様々な見方が出来、それが絶対的に正しいことではないと分かります。信じていることが否定されるということですので、一種の「破壊」です。ただその環境の中で、自分の考えを理解してほしいと思えば、自然と多くの文献にあたり、議論の場に参加するというような経験を積み行動につながります。そこでまた新しい自分が「形成」されるのだと思います。

今年度もこの過程を繰り返しながら、社会にとって少しでも有用な人材になればと思います。

## 市民の力をより強く社会に

松嶋 健太郎 (法学研究科)

市民活動の中間支援という現場で、様々な人と活動に出会ってきました。活動の喜びと悩みに向き合う中で、多くの経験をさせてもらってきましたが、同時に、活動する人たちの力を地域社会に十分に結びつけ切れていない「もやもや」とした不快感を自分の中で感じていました。

大学院生活は始まって間もないですが、指導いただく先生や、共に学ぶみなさんとのディスカッションは、すでに多くの気づきや学びを与えてくれています。「自分の力が十分でない」という「もやもや」の正体に気づいたのもその一つです。

市民の活動は、結局のところ社会にとって何なのか？ どのようなイノベーションが必要なのか？ 漠然とした問いはつきませんが、「わからない」と問いを返し、「なぜか」を掘り下げる力を、みなさんのお力を借りながら、鍛え、現場に持ち帰りたいと考えています。

快く送り出してくれた職場、サポートしてくれる同僚の思いに応えられるよう、限られた時間の中ですが、精一杯挑戦したいと思っています。

## 様々な出会いに感謝。これからも感謝

植木 武道 (経済学研究科)

港の現場に立ち十数年。現在は現場の視点をもちつつ法人、市民をはじめとする様々な利用者へ大阪港を売り込むことを主な業務にしてきました。世は目まぐるしく変化し、経済的な見地の必要性が強く求められているこの現在、行政と港湾について様々な方のお力をお借りし研究できる機会を提供していただいたこと、心より感謝いたします。

港湾という特殊な職場にいることから、良きにせよ悪きにせよ、通常の行政職員とは一線を画した感覚を持っておりますので、その事を皆様に使ってもらえば幸せに思います。

最後に、ご挨拶にかえて、私の好きな言葉を紹介いたします。「MALTTI ON VALTTIA」フィンランド語で「忍耐は力」だそうです。スキーマの金メダリストの方から教えていただいた言葉でした。この一年、研究をやりとげるために、関わる全ての人に感謝し、出会いを大切に、そしてMALTTI ON VALTTIAの精神で役にたてる研究成果に捧げます。

## 2009年度 NPO・地方行政研究コース 入学生

研究科	氏名	推薦団体
法学研究科	連携協定 五百木孝行	京都市役所
	連携協定 市川 岳仁	(特活)三重ダルク
	連携協定 庄 巧郎	長岡京市役所
	連携協定 坂本 孝男	(株)箕面都市開発
	連携協定 福留 啓二	枚方市役所
	連携協定 酒部正太郎	奈良市役所
	連携協定 渋井 満	大阪市役所
	連携協定 坂居 雅史	草津市役所
	連携協定 松嶋健太郎	(特活)きょうとNPOセンター
	一般 石本 淳晃	学部卒
一般 塩田 健悟	学部卒	
一般 船越亜里沙	学部卒	
経済学研究科	連携協定 澤田 一毅	京都市役所
	連携協定 植木 武道	大阪市役所
	連携協定 井上 良子	(特活)ひらかたNPOセンター

## 龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースによるこそ



現場で悩んでいた難題と  
本気で格闘する絶好の機会  
辻田 素子 (経済学研究科 准教授)

入学おめでとうございます。第一線で活躍されてきた社会人のみなさんにとって、現場で悶々と悩んできた難題と本気で格闘する絶好の機会が訪れました。専門知識を貪欲に吸収し、難題にアプローチするための研究手法を学んでください。表層的な現象にとらわれないこと、背後に潜むメカニズムや論理を解明しようと努めることが大切です。真剣に悩み考え抜かないかぎり、難題の解決策は見えてきません。決して投げ出さないことが肝要です。

私は現在、中小企業のネットワークを研究しています。中小企業の成長と、企業が組み込まれているネットワーク構造との関係に興味があります。同じような能力、意欲を持った企業家が同じような成功を手にするとは限りません。企業家がどのような環境に置かれているかは、事業の成否を規定

する重要な要素です。ソフトウェア関連ビジネスで世界を目指す若者が、アメリカのシリコンバレーに向かうのは道理にかなった選択です。

その一方、私たちを取り巻く環境は所与のものではありません。私たちの暮らしや社会の仕組みは、私たち一人ひとりが主体的に働きかけることによって変化します。日本は成功しませんでした。台湾や中国、インドはいつでも国内に、シリコンバレー的なハイテク産業地域を作り上げました。そこでは、アメリカで学んだ留学生が重要な役割を果たしています。

大学院という異質な社会に取って飛び込んでこられたみなさんにも、職場や地域社会に変革をもたらす役割が期待されています。大学院では、思考し行動する力を蓄えるとともに、バックグラウンドが異なる様々な立場の学友や教員と交流し、多彩な人的ネットワークを構築してください。普段出会わない人々との“遠距離交際”を通じて得た、新しい知識やアイデア、価値観などが、個人の人生を豊かにするとともに、組織や社会の変革を促進する原動力になってくれるでしょう。

# 修了おめでとう

修了おめでとうございます。今年度も社会へ巣立つ院生を送り出すこととなりました。若手院生はいよいよ船出、社会人院生は新たな出発の航海に出ます。世界同時不況という荒々しい状況下での旅立ちですが、それぞれの目標に向かって洋々たる大海に舵をとっていかれることを期待しています。そこで修了生2名に新たな決意の言葉をいただきました。

## 「共にあること」

正木 隆之 (法学研究科修了)

終わってみれば、あっという間の、チョー濃密な1年間でした。先生方や諸先輩から、事前に論文の書き方など多くの助言をもらっていたのですが、その意味を真に理解したのは、年が明けてなお論文が進まず、悶々としている時でした。アリの忠告を聞かなかった件(つん)のキリギリスもきっとこんな心境だったかしらん、と気づいたときは後の祭り…。でもその時、先生方や同じ学窓の仲間が脳裏に浮かんで、くじけそうな気持ちを支えてくれました。先生方の熱意とホスピタリティに応えたいという思いに加えて、「仲間と共にある」という不思議な一体感に包まれて、最後の力が発揮できたのだと思っています。ユネスコがまとめた「21世紀の教育」には、“Learning to live together”という学習の指針が掲げられていますが、「共に生きるための学び」を、個ではなく、教員と院生がいっしょになって創造していく場が「NPO・地方行政コース」だと感じました。同期の6人がそろって卒業できたのは喜ばしいことですが、修了生の真価が問われるのは、これからです。「共にある社会」の構築に向けて微力ながら力を尽くしたいと考えています。

## NPO・地方行政コースで得たもの

水流 美重 (経済学研究科修了)

地域社会でNPO職員・自治体職員として働いている社会人院生、これから地域社会の職員を目指す学部所属の若い院生が、積極的に互いに刺激あい、先生方のアドバイスを受け議論をする中に、「学ぶもの」があり、「発見」がありました。また、論文指導のゼミでは留学生の院生とも一緒に、海外の貴重な話も聞くことができ(意見交換等)有意義な時を過ごすことができました。修士論文は私の夫が視覚障害ということもあり「バリアフリー」について研究しました。有職者・主婦(夫の介護も含む)・院生と3足の草鞋を履くということは厳しく同期の友とは一緒に修了はできませんでしたが、担当教授をはじめ、多くの恩師に厳しく、時には優しいご指導を賜り、事務局の方々、同期の友・2007、2008年度生、職場である市役所の方々の励まし、そして我が家族の理解があって私は無事に修了することができました。今後はこの感謝の気持ちをこの大学院で得たものとして市民に還元したいと思います。

## 修了生への祝辞



### 今日の修了、明日の始まり

土山 希美枝 (法学研究科 准教授)

NPO・地方行政研究コースを修了されたみなさん、おめでとうございます。昨年のいまと、今年のいま、みなさんに見える風景は異なるでしょうか？進学に際しては期待と不安を複雑に混ぜておられたことでしょうか。ですが、そこから、充実感と安堵と、ちょっとした寂しさがあらわれてきたのが「いま」ではないでしょうか。開講5年を経て、このコースの特徴は、理論と実践の架橋、それを支える濃密な授業と指導といわれるようになってきました。その特徴を作ってきた

のは教員にとどまらず、院生のみなさんの熱心な学究姿勢です。修了生を送り出すたびに、その姿勢への感服を深めずにはいられません。みなさんは、濃密で凝縮された日々を得るために来られました。それを過去のものにするのではなく、未来につなげるために、大学を出ることになります。「終了」にすることなく、ときにはコースの人々や企画とつながることができるよう、いま見える「学びの風景」のための窓を開いて下さい。大学院には珍しいことですが、同窓会も発足しています。修了された方と実務や研究や相談で顔を合わせることも増えてきました。こうした機会への積極的な参加を期待します。修了生の縦のつながり、研究という横のひろがりによって、つながりつづけられるコースとなるよう、教員・大学もとりくんでいきたいと思っています。今日の修了と、明日の始まりを、心からお祝い申し上げます。

## 海外インターンシップ報告

### この経験は私の人生を変える予感が 不破 亨 (法学研究科修了)

約10日間の海外インターンシップ(米国)に参加できたことは、非常に幸運なことであり、貴重な経験を得る機会となりました。訪れたパークリーやオークランドでは、希望に沿ったかたちで体験やインタビューをさせていただきました。普段仕事では市役所の職員として青少年の社会教育を担当していることもあり、特に公的な児童放課後プログラムであるBerkeleyLEARNへのインタビューは期待通り興味深いものでした。ただ日本と異なる行政サービスを知ることよりも、むしろ行政以外の取組みに期待以上の学ぶべきところがありました。その1つはNPOの多様な取組みです。アート系の放課後プログラムを実施しているMOCHAや市民の意見を政策レベルに変えて行政に伝えるBANA、社会的弱者に情報と戦略を与えるDataCenterなど、魅力的なNPOをたくさん見ることができ、行政にない役割があることを知りました。

この経験は私の市役所人生を変える予感がします。



放課後プログラムを提供するMOCHAのスタジオ

### デモクラシーを体感した2週間

鳥居 良寛 (法学研究科)

私はアメリカのサンフランシスコの近く、パークリーという都市にインターンをさせて頂きました。その中で一番強く印象に残ったのは「デモクラシーの強烈な存在感」です。ちょうど市長選と大統領選挙が重なる時期だったこともあるかもしれませんが、いたる所で政治に対する主張が行われていました。

その中でも、特に衝撃を受けたのは、市議会です。議員が市民に背を向ける日本のようなスタイルではなく、市民と向き合う形で議席が配置されていました。また、傍聴席は市民で埋め尽くされており、開会すると市議会が市民が意見を述べることができる時間が設けられていました。



公開討論会に熱心に聴き入る市民

他にも、住民自治組織であるBANAという組織が市民主導で組織されるなど、住民が政治にコミットするシステムが多彩に設けられていました。これらをはじめとした様々な政治参加の仕組みから、パークリー市民の民主主義に対する篤い思いを感じた2週間でした。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

## 第3回 全国大学まちづくり政策フォーラム in京田辺 ～本コース若手院生たちが優秀賞を受賞～

「第3回全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺」が2008年3月8、9、10の3日間にわたって、京田辺市にある同志社大学のキャンパスや京田辺市役所を会場として開催されました。

本コースからは、法学研究科の定松功さん、朝倉健太さん、鳥居良寛さん、橋詰清一朗さんが参加したほか、単位早期履修制度に参加している法学部生の塩田健悟さんも参加されました。以上5名は学部と合併開講されている「地域研究発展演習」を履修しており、さらにメンバーに学部生2名を加えた7名で参加しました。

7名は「あるもの探して電力供給 ～京田辺に眠る資源エネルギーを使った未来のスタター～」と

いう題で、京田辺市において現在、非化石燃料由来のエネルギーがうまく利用されていない状況をしめし、こうした再生可能エネルギーの利用を促進するためにはどのような政策が考えられるかについてシミュレーションを用いつつ考察し、政策提言の発表を行いました。

なかでも、太陽光パネルを耕作放棄地に設置するモデルや上水道の配水池間に小水力発電機を設置するモデルは参加者の興味を引き付けていました。

その結果、全国から参加した11チームの中で、地域研究発展演習チームは準優勝にあたる、優秀賞を受賞しました。その直後に開かれた市民

フォーラム(パネルディスカッション)には朝倉健太さんがパネリストとして参加し、京田辺市の今後の在り方について環境政策の重要性を訴えながら、京田辺市の未来像についてディスカッションを行いました。

参加者の鳥居良寛さんは「PEGASUSというシミュレーションソフトを使い、シミュレーション結果を出すためにいかに情報をリアルにするかという点が非常に苦労したが、実際、京田辺市を回る中で、様々な発見があり、実際に地域を回ることがどれほど重要かということ改めて認識した」と語っていました。

(編集部)



市内を回り目の当たりにした耕作放棄地



建て替えが検討される焼却施設



優秀賞受賞後のパネルディスカッション



### 体 験 記 宿

2009年3月13日～14日京都宇多野にあるユースホテルにおいて、NPO地方行政研究コース恒例の春合宿を行いました。今年の内容は昨年度、本コース修了生による、修士論文発表会でした。本コースは修士論文の指導を目的とした特別演習を社会人の都合に合わせて、水曜日と土曜日に分けています。そのため、水・土曜の院生はお互いの論文内容をくわしく知る機会がありませんで

した。そこで院生が集まる合宿を利用し、双方が論文の内容を知るきっかけになればと、今回の企画になりました。発表会では昨年度修了された3名の方が、

先生方の厳しい評を受けながらも修士論文について発表をしました。発表会終了後は酒を酌み交わしながら、次の日が2008年度の修了式であったにもかかわらず、夜遅くまで様々な話を語り、盛り上がりました。

(法学研究科 朝倉 健太)



翌日の修了式にて

## 事務局インフォメーション

### ●2010年度4月入学 法学研究科・経済学研究科大学院入学試験案内

#### ■一般・社会人入試(秋期)入学試験

出願期間:2009年8月19日(水)～25日(火)

試験日:2009年9月19日(土)

合格発表:2009年10月2日(金)

#### ■一般・社会人入試(春期)入学試験

出願期間:2010年1月12日(火)～22日(金)

試験日:2010年2月20日(土)

合格発表:2010年2月26日(金)

### ●2010年度4月入学 NPO・地方行政研究コース

地域連携協定団体推薦入学試験案内

事前審査受付:2009年10月8日(木)～10月14日(水)(締切日消印有効)

事前審査結果発表:2009年10月30日(金)

※協定先所属団体長宛に簡易書留・速達郵便、本人宛に特定記録・速達にて通知

本選考受付期間:2009年11月9日(月)～11月16日(月)(締切日消印有効)

試験日:2009年11月28日(土)

合格発表:2009年12月11日(金)

### ●NPO・地方行政研究コース地域連携協定団体への入試に関わる説明会

協定先との懇談会(入試説明会) 2009年7月中旬

(推薦入試要項を配布します。また協定団体間の情報交換・交流も目的としています。)

推薦入学者への入学前ガイダンス 2010年2月下旬

(合格者へのコース授業の概要、履修登録説明などをおこないます。)

### ●「地域リーダーシップ研究」「先進的地域政策研究」2009年度前期講演会の予定

2009年5月25日(月) 18:00～20:00 深草学舎3号館102教室

講師:米国タイズ財団理事長 ドラモント・バイク氏

2009年6月13日(土) 13:00～17:00 深草学舎21号館603教室

講師:FMあまみ「ディ」代表 麓憲吾氏 ほか

2009年7月21日(火) 18:25～19:55 深草学舎21号館101教室

講師:EU評議会 エリック・ポンテュー氏

### 新スタッフ紹介



リサーチ・アシスタント 杉岡 秀紀

昨年度はLORCのRAとして地域公共人材の教育・研修プログラム開発に取り組んできました。また、京都発で地域公共人材を社会化していくための組織「地域公共人材開発機構」の事務局も兼務しております。最終年度のみを担当にはなりますが、これらの経験を活かし、大学院GPとして有終の美を飾れるよう頑張っており、どうぞ宜しくお願いいたします。

## NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻13号 2009年5月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先/教学部(深草)  
TEL: 075-645-7891 FAX: 075-643-5021

H P/ [http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集/大矢野修、松浦さと子、土山希美枝(編集補助) 藍澤ゆかり、鳥居良寛、松越亜里沙  
印刷/株式会社 田中プリント